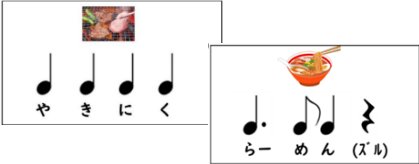



音楽

イメージする・想像する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
旋律やリズムをイメージして正しく演奏することが難しい	音や演奏手順がイメージできるように




<手立て>		
<p>① 旋律やリズムをイメージしやすくする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムを、馴染みのある言葉に置き換えて伝え、一緒に確認する。  <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の音の動きをジェスチャーで表現して伝え、一緒に確認する。 ・旋律やリズムを図示して提示し、視覚的に伝える。 ・モデルとなる友達とグループで一緒に練習をするようにする。 	<p>② 演奏の手順をイメージしやすくする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏したり止めたりするタイミングに合わせて合図をする。 ・楽器や鍵盤に番号シール等を貼り、演奏する順序が分かるようにする。 ・楽器を演奏する順番に、音の長さに応じた間隔で並べる。 ・手本となる演奏の動画や、演奏手順を示したアニメーションを、電子黒板やタブレット端末等で再生して伝える。必要に応じて、スロー再生や分割再生をする。 	<p>③ 本人に合った演奏パートを設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不協和音になりにくい音や、シンプルなリズムのパートを設定する。 ・即興的な演奏パートを設定した合奏を構成し、演奏の自由度を高める。 <p>ポイント! うまくできない経験を重ねると、表現することを恐れるようになってしまうことがある。 成功体験を重ねて、「表現すること」に意欲的に取り組めるようにする。</p>

感覚が過敏である

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
苦手な音があり学習に集中することが難しい	苦手な音刺激を緩和できるように



<手立て>		
<p>① 音から距離をとる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーカーから離れた座席にする。  <ul style="list-style-type: none"> ・合奏の際には、苦手な楽器から離れた位置で演奏する。 	<p>② 音量を緩和する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてイヤーマフや耳栓、デジタル耳栓等を着用する。 	<p>③ 室内の音環境を整える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机や椅子の脚にテニスボール等を付ける。 ・スピーカーやマイク等の電子機器のノイズを調整する。

見る

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
音符の種類や高さ、音符記号等を見分けることが難しい	視覚的に情報を整理し、音符の種類や高さや音符記号の違いを見分けやすくするように


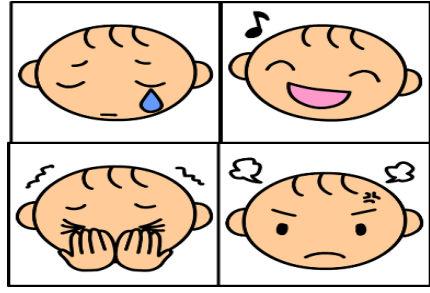
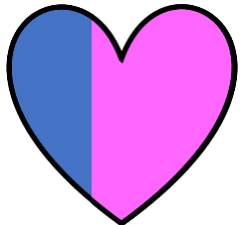
<手立て>

① 拡大する	② 見分けやすい方法で示す	③ 視覚的な環境を整える
<ul style="list-style-type: none"> 楽譜を拡大印刷して提示する。 タブレット端末や電子黒板を用い、注目する箇所を拡大して提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 注目する記号に色を付けたり、色枠を付けたりする。 五線譜の代わりに、フィギュアノート等の、色や形で音を表した楽譜を使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 室内の掲示物や板書を整理し、注目する楽譜等を焦点化する。 明るさや光の当たり方に配慮し、手元や板書が見やすい座席にする。

気持ちを表現する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
音楽のイメージや感情を言語化して表現することが難しい	ヒントをもとに言語で表現できるように言語以外の手段で表現できるように



<手立て>

① 言語のヒントを与える	② 言語以外の手段で表現できるようにする
<ul style="list-style-type: none"> 様々な形容詞や、「音楽の感じを表す言葉」をまとめたヒントカードを掲示したり手元に置いたりする。 その音楽の特徴的な「音楽を形作っている要素」を視覚化して伝え、特徴的なフレーズに限定して表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 感情を表す表情のイラストを選択して表現できるようにする。 「気持ちの尺度」「雰囲気メーター」等の教材を用意し、気持ちや雰囲気の動き（移り変わり）を示すことで表現できるようにする。 「好きだと思ったところ」「怖い感じがしたところ」等の着眼点を提示し、音楽のどの部分でそう感じたかを表現できるようにする。  

体の動きを調整する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
音色や音量に適した力加減や息遣いを調整して演奏することが難しい	音色や音量に適した力加減や息遣いの調整の仕方が具体的に分かるように



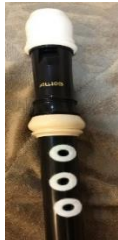


<手立て>			
<p>① 分かりやすく比較して伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> 音色や音量の違いを極端に表現して演奏してみせ、違いに気付くようにする。 音色や音量の違いを極端に表現するように促し、体の使い方の違いを、体感できるようにする。 	<p>② イメージを具体化して伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ろうそくの火を吹き消す」「シャボン玉をふくらませる」等、息遣いのイメージを伝え、一緒に確認する。 	<p>③ 調整方法を具体的に伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> 腕や指等を動かす幅や方向を具体的に伝えるようにする。 吹き戻しや吹きコマ、水に浮かべた船、ストローと水等を使い、息で操作する体験を通して息遣いを体感できるようにする。 	<p>④ 楽器を調整する</p> <ul style="list-style-type: none"> 打楽器の一部に布を付ける等の方法で、音量を調節する。 

操作する

<困難さ>	<指導の工夫の意図>
複雑な動作を要する演奏をすることが難しい	動さの補助、楽器の工夫等により本人に適した動作で取り組めるように



<手立て>		
<p>① 本人に合った動作にする</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽器を固定し、手で支えなくても演奏できるようにする。また、動きやすい姿勢で演奏できるようにする。 ハンドベルや卓上ベル、トーンチャイム等を、音階の順番でなく、演奏する順番に並べる。 一つの音しか出ない楽器を複数並べて鍵盤の間隔を広げ、演奏しやすくする。(例：鉄琴→音積み木)  	<p>② 動作の補助をしたり手がかりを与えたりする</p> <ul style="list-style-type: none"> リコーダーの穴に、穴のあいた立体的なシールを貼る。 * 魚の目パッド等 太鼓の面のパチを当てる部位に印を付ける。 演奏に不要な鍵盤をシートで隠す。 	<p>③ 楽器を工夫して正しい音が出るようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 木琴や鉄琴の音板を外し、演奏に必要な音だけを並べる。 リコーダーの穴をテープで塞ぎ、指で押さえない場合でも決まった音が出るようにする。 不協和音になりにくい音や、即興的なリズムのパートを設定し、演奏の自由度を高めるようにする。 